

# 第2学年 道徳学習指導案

日時 令和3年11月5日（金）

場所 2年 組教室

授業者

1 主題名 よりよい社会を目指して

2 資料名 住みよい社会に

3 主題構成表

### ■内容項目

C-（12）社会参画、公共の精神  
社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。

### ■価値の分析

- ・社会を構成する一人一人が安心・安全によりよく生活するためには、社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことが大事になる。また、共に手を携え、協力し、互いに安心して生活できる社会を創っていかうとする自覚が出てくる。
- ・学年が上がるにつれて、関わる人が限られ、人間関係が希薄化したり、部活動や勉強が忙しくなったりする。そのため、生徒会活動やボランティア活動に積極的に関わろうとすることが少ない。また、他者に対する配慮を欠き、公の場で自己中心的な言動をとってしまうことも少なくない。
- ・よりよい社会を実現するために、迷惑をかけないような行動を身に付けるだけでなく、周囲の人のことを考えて行動し、進んで社会と関わり積極的な生き方を模索しようとする態度を育てたい。

### ■内容項目から見た生徒の実態

- ・互いに安心して生活できる学校・社会を望んでいるが、よくするために何をすべきか、主体的に考える生徒は少ない。
- ・よりよい学級をつくろうと生徒会活動に取り組む生徒もいるが、自分の仕事さえやればよいと思っている生徒もいる。また、学校でのあいさつ運動などに参加する生徒は多い一方で、地域の清掃活動や行事などでボランティア活動に参加する生徒は少ない。
- ・周りに迷惑をかけなければよいという意識の生徒がいる。

### ■要因

- ・同じ地域に学校の仲の良い子がいないため、1人で参加するのは嫌だと思っている。
- ・誰かがやってくれるだろうと人任せにしたり、地域のことは大人がやってくれると考えたりしている。
- ・学校行事や地域で活動する機会が減っている。

### ■資料の分析

- ・本資料では、監視カメラが設置されていることに関連した新聞記事の事例が挙げられている。ゴミ集積所や駐輪場での行動がカメラによって監視されることについて話し合い、住みやすい社会にするために必要なことを考えることができる資料である。
- ・マナーの向上や分別ルールを守るなど、住みやすい環境を整えるために監視カメラを設置しているが、よりよい社会の実現には、カメラで監視することより社会連帯の自覚や公共の精神が必要であることに気付かせたい。
- ・よりよい社会を実現するには他人に迷惑をかけないことにとどまらず、社会に関心を持ち、社会連帯の自覚を高めようとする意欲につなげたい。

### ■ねらい

住みやすい社会をつくるためには、周りの人たちのことを考えた行動をすることと自分から積極的に関わろうとすることが必要だと気づき、これからの学校生活や地域の活動で実行しようとする態度を育てる。

### ■展開の構想

- ・防犯カメラの設置について、数直線に賛成か反対かを記し、集計結果を提示し、その理由や考えを話し合わせることで、多様な考えがあることに気付かせる。自分の生活に防犯カメラがあると、どのような思いになるかに着目して考えさせる。
- ・「誰もが住みやすい社会」をつくるためには、人に迷惑をかけない行動をすることだけではないことに気付かせる。
- ・授業を通して意識の変化を確認し、これからの生活で大切にしたいことをまとめる。

### ■基本発問（◎中心発問）

- 防犯カメラを設置することについて賛成か、反対か。
- ◎「誰もが住みやすい社会」をつくるために必要なこととは何か。
- これからの生活で、どんなことを大切にしたいか。

#### 4 道徳の時間(本時)と他の教育活動との関連

＜場の内容・ねらい＞

■学校行事  
「若狭研修」  
・ 民宿の方との語らいふれあい活動を通して、社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たそうとする意欲を育てる。

■総合的な学習の時間  
「校内職場体験学習」  
・ 進んで社会と関わり、積極的な生き方を模索しようとする意欲を育てる。

■道徳の時間  
「住みよい社会に」  
内容項目C-(12)  
・ 住みやすい社会をつくるためには、周りの人たちのことを考えた行動をすることと自分から積極的に関わろうとすることが必要だと気づき、これからの学校生活や地域の活動で実行しようとする態度を育てる。

■総合的な学習の時間  
「校内職場体験学習振り返り」  
・ 働く人との交流を通し、豊かな人間関係を築いていく態度を育てる。  
・ 共同生活を営む人々の集団である社会の一員として、積極的に関わろうとする態度を育てる。

■日常生活  
＜給食配膳＞  
・ 当番一人一人が協力し、誰もが安心・安全に給食を食べられるように配膳を行うことができる。

＜掃除＞  
・ 掃除の時に、自分の分担された場所だけをきれいにするだけではなく、まだ終わっていない仲間の掃除を手伝ったり、担当場所を何度も繰り返して掃除をしたりすることができる。

＜委員会・係活動＞  
・ 委員会・係活動に積極的に参画するなど、体験を通して、実際の学校生活に生かすことができる。

＜ボランティア活動＞  
・ 資源回収や清掃活動を通して、自分たちの行っているボランティア活動が地域の役に立っていることを自覚する。また、自分にできる簡単なことで助かっている人がいる事実を知ることができる。

＜生徒の意識＞  
・ 体験を通して、自分から仲間と関わることができた。  
・ 民宿の方の話を聞いて、働くことが社会や他の人のためになることを知ったから、自分も社会のために頑張っていきたい。

・ 多くの人たちとの関わり合いの中で、働いている方が多いんだ。  
・ 自分も周りの人たちに自分から積極的に関わっていこう。

・ 周りの人たちのことを考えて行動して誰もが安心して過ごせるようにしていきたいと感じた。  
・ 人任せにせず、自分から進んで声をかけて、協力していきたいと思った。

・ 自分も将来働くときに、多くの人たちと関わって助け合いながら、生活していきたい。  
・ 学校の仲間や地域の人達と積極的に関わることがよりよい社会をつくっていくことにつながると感じた。

＜指導・援助＞  
・ 生徒同士の声掛けを見届け、よりよい体験活動ができるように自分から声掛けをした生徒を認める。  
・ 生徒一人一人に、自分も社会の一員であるという自覚をもてるようにする。

・ 生活において周りの人たちが嫌な思いをしないような行動を身に付けさせるとともに、進んで周りに関わらせるようにする。

・ よりよい社会の実現には、誰もが安心して生活できる社会をつくっていこうとする自覚や、社会全体のことを考える精神が必要であることを気付かせる。

・ 多くの人との関わりの中で生活していることに気付かせる。  
・ 進んで社会的な責任を果たすために、どのような行動を取るべきかを主体的に考えさせる。

5 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>1. 係活動やボランティアに関するアンケートの結果を提示し、価値の方向を確認する。</p> <p>①学級の仲間のために活動したい。 自分の仕事だから、仕方なくやる。 ②地域の人の役に立ちたい。</p>	<p>①委員会や係活動の時、どのようなことを考えて、行っていますか。</p> <p>②ボランティアにどのような思いで参加していますか。</p>
展開前段	<p>2. 資料を読み、話し合う。</p> <p>○防犯カメラを設置することについて、賛成か、反対か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心するから、賛成。</li> <li>・監視されてるみたいで嫌だから、反対。</li> <li>・確かに悪いことをする人は少なくなるから、賛成だけど、見張られてるみたいで嫌な気持ちにもなるから少し反対。</li> <li>・監視カメラはあった方がいいとは思うけど教室にあるのは嫌だ。</li> <li>・物が紛失することもなくなるから、いいのかもしれないけど、気分はよくない。</li> <li>・みんながルールを守れば、監視カメラは必要ないと思う。</li> <li>・監視カメラがなくても、自分たちで安心できるように生活すればいい。</li> <li>・お互いに困っていきそうな人がいたら、声をかければ安心して生活できる。</li> </ul> <p>◎「誰もが住みやすい社会」をつくるために必要なこととは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・迷惑をかけないこと。</li> <li>・自分勝手な行動をしないことやルールを守ること。</li> <li>・相手や周りの人たちの気持ちを考えて、周りの人たちが嫌な思いをしないような行動をすること。</li> <li>・今、生活している学級でも、人任せにしないでみんなのために自分から係の仕事を責任もってやっていくこと。</li> <li>・例えば学級の中なら、授業の前に係の子と一緒にノートやプリントなどを配って、みんながすぐに授業を受けられる環境をつくること。</li> <li>・生活の中で、自分から進んで、声を掛けて周りの人たちと協力できることは、協力すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・範読前に「地域社会の防犯カメラ設置についての話である」ことを伝え、範読後に、新聞記事の事例にはどのような問題があったか、誰もが安心して生活できる社会かを聞いてから、発問につなげる。</li> <li>・数直線に賛成か反対かを●で記させ、理由を書かせる。また、集計結果を提示する。(タブレット使用)</li> <li>・「教室に実際に防犯カメラを付けられたらどうか」と問い、自分の生活に防犯カメラがあるとどのような思いになるかに着目して考えさせる。</li> <li>・「見張られるのが嫌」なら、防犯カメラを付けずに、住みやすい社会にするにはどうするとよいか考えさせる。</li> <li>・自分の考えをカードに書いてから、クラスで共有する。共有したカードをもとに交流し、多様な意見を取り入れて考えを深めさせる。(タブレット使用)</li> <li>・具体的な場面を想起して考えている生徒を意図的に指名し、自分の生活の中での「住みやすい社会」とはどんな社会かに着目して考えさせる。</li> <li>・「誰もが住みやすい社会」をつくるためには、人に迷惑をかけない行動をすることだけではないことに気付かせる。</li> <li>・「学級の中に置き換えるとどのようなことか」と問う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価の視点】</b></p> <p>仲間の意見から、「誰もが住みやすい社会」をつくるためには、周りの人たちのことを考えた行動をすることと、自分から積極的に関わろうとすることが必要だと気付いている。</p> </div>
展開後段	<p>3. これからの生活で、大切にしたいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、学級で自分の仕事をやっていけばいいと思って、班の仕事の人任せにしたこともあった。これからは、学級のために、人任せにせずに責任ある行動をしていきたい。</li> <li>・これまで、学校のあいさつ運動には参加したことがあったけど、地域のボランティア活動にはあまり参加していなかった。これからは、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り用紙に、「これまでは」「これからは」という書き出しに沿って書くことによって、自己の変容に気付くことができるようにする。</li> </ul>
終末	<p>4. 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい社会を実現しようとする実践意欲を高めさせる。</li> </ul>

